

学際的研究 ポスト・コロナ学

2020年5月、筑波大学で開始された「**新型コロナウイルス緊急対策のための大学『知』活用プログラム**」は、研究成果の社会還元を通してコロナ禍による危機的状況の解消を目指しています。

ウイルス学、医学、健康科学、数理科学、情報学、教育学、社会心理学、法学、経済学、芸術学などの分野の27プロジェクトが採り上げられ、研究者を対象としたワークショップなどにより、専門分野を超えて活動しています。これら多様な研究を社会に広く提供するため、2022年4月『**ポスト・コロナ学**』(秋山肇 編)として一冊にまとめ上梓しました。

構成は、**I** 新型コロナと公衆衛生・社会、**II** 新型コロナと福祉・教育、**III** 新型コロナと日本、世界、**IV** 新型コロナと芸術、**V** 新型コロナとポスト・コロナ学から成り、いくつかの研究領域にまたがっている学際性に特徴があります。編者は、コロナ禍によって変わったこと〔変化〕、変わらなかったこと〔連続性〕の両方を見つめることで、新型コロナウイルスが社会に与えた影響の全体像を明らかにすることができ、その後の社会を構想しようとしています。

ディスタンス・アート 星野源 うちで踊ろう

「**IV** 新型コロナと芸術」の「9 ディスタンス・アートの創作手法分析」では、コロナ禍が芸術分野の制作環境、受容環境が大きく変容させたことを取り上げています。「ディスタンス・アート」とは、「ディスタンスと関係するアートやフィクション」と広く定義し、その新しい文化的価値を探ります。

様々な形式がありますが、ネット上で展開するものの特徴は、①画面分割や複数画面、②PC画面や通話を見せる、③映像をつないでいく、④WEBカメラ内での表現、⑤自宅の使用の5つがあります。

ディスタンス・アートの鑑賞にも変化がでてきており、双方向性が重要となっています。とくに他人が公開した動画に対し、自分の動画を横に並べるように編集し、「自らの作品を重ね」てセッションを楽しむものとして、シンガーソングライターで俳優の星野源さんによるYoutube動画は大きな話題になったことを取り上げています。

ディスタンス・アートの未来

災害や危機が発生すると、従来のようにアートが作れなくなる可能性があることが、今回のコロナ禍ではっきりしました。編者の秋山肇氏は、「どのようなアートが有りうるのかを先に考えておくことは、文化を生き延びさせる上で重要」と述べています。

同書は「COVID-19下の創造性と芸術表現」における各国

の状況にふれています。日本の場合、文化庁における「文化」の定義は極めて広く設定されており、「中央主導型と民間・地方主導双方に特徴づけられる戦後の日本の文化行政は、1990年代に至るまで、長らく民間との距離を取ってきた。そのため、文化庁における文化創造経済の位置づけも明確でなく、また、文化庁は公益に係るもののみを対象とせざるを得ない事情もあり、政策として概観する限りにおいては依然として公・民の隔たりはおおきい。」と述べています。

千葉敏行氏が管理するfacebook公開グループ《**ポストコロナの合唱活動を考えよう**》でも、従来の形での合唱活動がコロナ禍でどのように変容するのか、その後の合唱はどうあるべきか、さまざまな角度からの提案や指摘がなされています。

これは、『ポスト・コロナ学』の立場と軌を一にしています。

コンサート オペラ蝶々夫人ハイライト ～お話と演奏で綴る蝶々夫人～

《オペラ蝶々夫人ハイライト》を新聞「不動岡高等学校物語」の発行を支援する会が開催します。不動岡高校は明治19年(1886)創立の埼玉で最も歴史と伝統のある県立高校です。

オペラ蝶々夫人ハイライト

日時：11月19日(水)14時開演(13時30分開場)
会場：パストラルかぞ(埼玉県加須市)



第1部〔大正ロマンの響き〕:「宵待草」「浜辺の歌」「恋はやさし野辺の花よ」など懐かしのメロディ、第2部〔オペラ蝶々夫人ハイライト〕:「広い世界を」「愛の二重唱」「ある晴れた日に」などを演奏、出演は、石田祐華利(ソプラノ:蝶々夫人)、池本和憲(テノール:ピンカートン)、御園生瞳(ピアノ)。全自由席(前売)1500円を『おんがく広場』をご覧の方は1000円で入場できます。 ○お問合せ(090-5413-7857 新井陽吉氏)